

震災教訓に防災意識向上

【更別】2011年の東日本大震災で宮城県石巻市で津波の被害に遭った佐藤敏郎さん(スマートサプライビジョン理事)と只野哲也さん(チーム大川未来を拓くネットワーク代表)を講師に招いた講演会「3・11を学びに変える あの日」の石巻市立大川小中学校の校庭から学ぶものが4日、更別農業高校(伊與部明校長、生徒94人)で開かれた。生徒、教職員ともに全校で、防災意識を行動に結びつけることの大切さを学んだ。

「訓練生かし行動を」

東日本大震災で大川小学校は大津波に襲われ、児童74人と教員10人が犠牲になった。佐藤さんは当時6年生の次女をしくし、当時5年生だった只野さんは津波にのまれながらも一命を取り留めたが、祖父と母、妹を失った。

講演会は「1日防災学校」として行われた。講話した佐藤さんは、想像を示して震災当日の状況や津波が引

更別農高 石巻市の当事者招き講話

震災後の子どもたち

- ・被災すること(第一)
- ・大いな人生
- ・被災者の心のケア
- ・大人は誰を助けるか
- ・子どもは誰を助けるか



更別農高で開かれた防災講話

いた後の街の光景、自身が取った行動などを紹介。「災害は人間の都合に関係なく地球の都合で予告なしにやってくる」とし、「避難訓練しただけでは命は助からない。訓練をいざという時に行動に結び付けることが防災だ」と訴えた。

「只野さんは「災害と共に生きる」をテーマに講演。震災後の生活や思い、被災した校舎の保存を訴える取り組み、大川小の卒業生らとつくる「チーム大川」の活動などについて語った。更別農高生には「夢を追い求めよう」としたとき、不安

になることもある。でも、本当に大切なと思ふことは自分を信じて実行に移してほしい」と呼び掛けた。

更別農高2年の及川雪翔(らいは)さんは「只野さんはつらかった気持ちを隠さず話し、前向きに生きていけると感じた。とてもカッコいい」と感想を語った。

本講演会は創立70周年記念事業の一環。前任校時代から講演依頼などを通じて佐藤さんと関わりのあった伊與部校長は「講話が生徒たちの防災意識の向上と命の教育につながれば」と話した。(宮崎さゆり通信員)

2022 大正8年創刊 (日刊)

2022年(令和4年)
10月15日 土曜日



あすの天気
17°C
9°C

発行所: 十勝毎日新聞社
〒080-0808 稚内市東1条西丁10
編集 ☎0155-22-2121 広告 ☎0155-23-7323
販売 ☎0155-24-2222 事業 ☎0155-22-7555
印刷 ☎0120-25-3069